

環境 国際理解  
地域文化 気候変動  
生物多様性 防災  
エネルギー その他

## 名古屋石田学園 星城中学校



創立：1993年  
住所：〒470-1161 豊明市栄町新左山20  
連絡先：TEL 0562-97-3121 FAX 0562-97-0044  
学級数：3 生徒数：73人  
HP：http://www.seijoh-jr.com/

### 地域創生プロジェクト～6次産業化を通して～

#### はじめに

本校は、創立以来自然体験研修を実施している。当初は、体験重視の活動で研修地の方々の協力で漁村体験などを実施していた。しかし、近年はこの行事を「主体的・対話的で深い学び」につながる実践的体験研修にしきれていないという思いが教員にあった。

そこで、本校で進めている持続可能な開発のための教育

(ESD)の理念を自然体験研修に導入した。「地域創生」という視点を取り入れ行事全体をリニューアルした。その目的を「校外での体験活動を通じて課題解決型の探究活動に主体的・協働的に取り組む力を養う」と定めた。地域にどのような貢献ができるかを考え行動する取組を通して、生徒たちの主体的で協働的な態度の育成を目指した。

#### 実践内容① 「baumクーヘン大作戦2018」

##### ねらい：特産品の新開発によるSDGs目標11「住み続けられるまちづくりを」の達成

本校では、探究活動の全体テーマを「地域創生」としている。例えば、自然体験研修ではその趣旨を体験型活動から課題解決型の探究活動へと切り替え「地域創生」のための提言活動に取り組んでいる。

本校の自然体験研修は福井県三方郡美浜町で実施している。2016年度は、地元の特産品である「へしこ」を取り上げ、新しいメニュー作りによる新たな美浜町の魅力づくりを提言した。翌2017年度は、探究活動に「美浜創生総合戦略」という名称を付け、より一層具体的な提言ができるよう工夫した。過疎化に悩む美浜町へ人を呼び込むために「美浜美景マラソン」を企画し提言した。

2018年度には、探究活動にSDGsの達成という視点を新たに導入した。SDGs目標11の達成を意識し地域の持続

可能な発展のための提言作成に取り組んだ。その中で、生徒たちが自然体験研修で苗付けしたサツマイモを活用して、「へしこ」に代わる新しい名物を作ることを着想した。本校の卒業生で洋菓子店を営む先輩から助言をもらい、サツマイモを使ったbaumクーヘン作りに挑戦した。サツマイモ農家の方や、サツマイモを粉にする加工工場の方、baumクーヘンを作るパティシエの方など、様々な人々と話し合いを重ね、意見を交換し、試作品完成までこぎつけた。校外で実施した3度の試食会を経て、ついにサツマイモbaumクーヘンを完成させた。その後、パッケージまで考え一つの商品として完成させて、美浜町産業祭にて販売した。地元の方々に好評でサツマイモbaumクーヘンを完売することができた。



美浜町での提言の様子

#### 成果

地域が抱える課題の分析や解決に向けた探究活動を通して、生徒たちは地域や年齢の異なる様々な人々と話し合いを重ね深く関わった。その結果、相手に説明し理解してもらおうための表現力を向上させることができた。また、美浜町に貢献できたという思いから自己肯定感を高めることができた。

#### 実践内容②

### 「CONNECT2019大作戦」

##### ねらい：6次産業化によるSDGs目標8「働きがいも経済成長も」の達成

昨年度の「baumクーヘン大作戦2018」の活動後、様々な活動に取り組んでいた生徒たちは、その中で「6次産業化」という言葉と出会った。「6次産業化」とは、「生産」の一次産業と、「加工」の二次産業、そして「販売」の三次産業を一体的に推進して、農山漁村の豊かな地域資源を活用し新たな付加価値を生み出す取組のことである。生徒たちは、「baumクーヘン大作戦2018」で取り組んだサツマイモの生産・加工、baumクーヘン作りと販売が正にこの「6次産業化」そのものだということに気が付いた。その後は「6次産業化」をキーワードにして今後の活動の方向性を考えた。

2019年度の探究活動では、「baumクーヘン大作戦2018」で生徒たちが行った取組を、地元美浜町で6次産業として定着させることを目指した。生徒たちはこの活動を「CONNECT2019大作戦」と名付けた。それはサツマイモbaumクーヘンを軸にして様々な人やモノをつなげていき美浜町に新しい産業を興そうと考えたからだ。この「CONNECT2019大作戦」を実現可能な事業へと練り上げ、美浜町へ提言することを探究活動の目的にした。

生徒たちはまず事業の組織づくりから考えた。6次産業化の主体となる新会社「LAKULAKUグループ」を設立し、その下に、生産部門、加工部門、販売部門をそれぞれ組織する。生産部門はもともと美浜町でサツマイモ栽培を手掛けている「新庄わいわい楽舎」に事業委託する。加工



美浜町産業祭での販売の様子

#### おわりに

リニューアルした自然体験研修では、生徒たちが「地域」とより深く関わる事ができている。その取組を通して①問題を発見し現状を把握する力、②情報を収集分析し問題の本質を突き止める力、③解決方法を考え、それを表現する力を伸ばす事ができている。意欲を高めた生徒たちは、学校行事だけでなく学校生活全般において積極



完成したサツマイモbaumクーヘン

部門は、サツマイモの加工工場建設から始める。「空き家バンク」で調査し、国道に近く水の確保が可能な工場建設用地を美浜町内で見つけることができた。成功のカギとなる販売部門では、まず美浜町の情報サイトをインターネット上に立ち上げ、美浜町の情報とともにサツマイモbaumクーヘンを通信販売していく方針を立てた。更には、美浜町内で喫茶店を運営し、付加価値を付けて販売促進につなげることも提言した。美浜町内の空き家を改築して、新しいお洒落な人気スポットに育てる計画を立てた。この店舗運営には「baumクーヘン大作戦2018」でお世話になった洋菓子店にアドバイスを受けることも考えた。

今年度の自然体験研修中にこの6次産業化の提言を行った。更に生徒たちは農林水産省に6次産業化に対して補助金を交付する制度があることを調べて提言の中に織り込んだ。その後、星城中学校と美浜町が事業に関する協定書に調印した。この秋には100個のサツマイモbaumクーヘンが完成し、美浜町産業祭にて完売することができた。生徒たちの2年間に及ぶ探究活動が事業として動き始めた。

#### 成果

SDGs目標8「働きがいも経済成長も」の達成を意識して取り組んだ。今回、生徒たちが一番苦労したのは、自分たちの発想と持続可能な事業運営との折り合いをどのようにつけていくかという点であった。現実的な問題にぶつかったときには、粘り強く考える。そんな思考力と判断力を伸ばすことができた。

的に活動できていると感じる。

現在、生徒たちは2年間の探究活動の手法や成果を本校の地元豊明市に生かせるように考え始めている。公立中学校と比べると地元とのつながりが弱い私立中学校において、生徒たちの地域貢献に向けての意識が変わってきたことは大きな収穫だと考える。